The Japan Society for the Study of Education

(4) 荒井A2型（二桁加算）と荒井A1型（一桁加算）との関係

$\gamma = 0.61$

猶(4)より二桁より一桁の方がより正確な結果を表示した。（全体のカーブを見れば更に明確となる）

6. 問題解決過程における縦波と横波との関係について

お茶の水女子大学 宗像哲子

1. 実験目的

本実験によってあきらかにしようとしたのは，問題解決過程において縦波と横波とがあらわれる場合，両者間にはどんな関係がみられるかということである。ここでいう縦波とは，ある一つの解決の仕方をたどっていく解決過程であり，横波とは，それとは別種のいくつかの解決の仕方へと移っていく解決過程である。

2. 実験手続

(1) 実験材料----多面的な（いく通りもの解決の仕方のある）問題

(2) 被験者----お茶の水女子大学附属中学1年女生徒6名

(3) 実験期日----1954年3月

本実験では被験者をA群（3名）とB群（3名）にわけ，第I実験においてA群はある一つの解決の仕方をたどっていくようにしむけ，B群にはいく通りもの解決の仕方へと移っていくようにとしむける。次に第II実験では，前よりも困難な問題を与えてA群及びB群にいく通りもの解決の仕方を考えさせる。

3. 結果の考察

実験結果の大要は次の如くである。

(1) はじめからある一つの解決の仕方をたどっていくようにしむけたA群の被験者にたいして，次に前よりも困難な問題を与え，いく通りもの解決の仕方を考えさせた場合，A群においては依然として縦波があらわれる。そこで「いままでやった方法とはちがった別の方法を考えるようにしなさい。似た方法をやってはいけません」というようにインストラクションをあきらかにすると，しばらく停滞しているが，やはりそれまでと同じように縦波が続いて現れる。これについて被験者に内観させてみると，客観的には縦波であるにも拘らず被験者自身はそれを前とよほど違った解決の仕方だと思っていることがわかった。

NII-Electronic Library Service